

経済活性化を考える

開倫塾

塾長 林明夫

地域の経済を活性化させ、雇用や税収、市民の福祉を維持するにはどうしたらよいか。

足利市では大豆生田実市長の依頼で経済活性化諮問会議がスタート。私も会長として参加している。経済活性化のためには、直面する現実を直視、取り組むべき課題を設定、企業や地域の存亡を懸けて真正面から立ち向かう以外ない。

すべての企業と地域が取り組むべき最大の課題の1つは、超円高とグローバル化に耐えられる国際競争力の強化だ。

企業経営者だけでなく自治体トップは、国内に籠もることなく、年に5～10回は海外に出掛け、世界で何が起きているかを自分の目でしっかり見た上で、企業や自治体の将来を考えるべきだ。

英語を企業や自治体の第2共通語にすることは、国際競争力強化の第一歩だ。

外国からの留学生を大切にし、学びやすい街づくりをすること、一人でも多くの留学生を卒業後に自らの企業や自治体で雇用し、活躍してもらうこと。

中国からは、観光客だけでなく、企業誘致も積極的に行うことだ。

外国との取引に強い人材を内外から雇用した上で積極的に打って出るなど、国際競争力強化に向けてやるべきことは山ほどある。

少子化対策として、英語の授業はすべて英語で行うなど学校教育のレベルの大幅な向上や、お勤めを中断することなく子育てができる環境整備は不可欠だ。

医療や介護、福祉に従事する専門職の方々が安心して働け、また、自分の力で日本一のレベルにまで能力強化が果たせること。休耕田での農業や森林整備などに多くの市民が参加できる街づくりも魅力的だ。

あきらめたらおしまい。企業経営者だけでなく市民が知恵を出し合い、自分のこととして経済の活性化に励み、自分たちの未来は自分たちの力で切り開きたい。